

# 富山大学 学報

## 第243号

### 目 次

関 係 法 令..... 2	昭和58年度国家公務員レクリエーション共同事
諸 会 議..... 2	業富山地区ボーリング大会..... 5
学 事..... 3	学内レクリエーション〈囲碁大会〉..... 5
共通第1次学力試験の実施..... 3	シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(5)
学 内 諸 報..... 3	〈赤谷山の遭難〉(続)..... 5
附属図書館長の改選..... 3	寄 稿〈西ドイツ見聞記〉..... 7
現金自動支払機(CD)の設置並びに教職員に	保健管理センターだより〈雪の上のふれあい〉... 9
対する給与の口座振込の概況について..... 4	職 員 消 息..... 10
富山大学職員成人式..... 4	主 要 行 事..... 11

\*\*\*\*\*

### 関 係 法 令

\*\*\*\*\*

(官報掲  
載月日)

(官報掲  
載月日)

#### 規 則

- 人事院規則（特殊勤務手当）の一部を改正する規則（人事院9-30） 2・1

#### 告 示

- 大学の位置を変更する件（文部8） 1・19
- 大学の名称を変更する件（文部9, 10） 1・19
- 大学、短期大学、大学の学部、短期大学の学科及び大学の学部の学科の設置を認可した件（文部11） 1・19

\*\*\*\*\*

### 諸 会 議

\*\*\*\*\*

#### 昭和58年度第5回富山大学廃水処理室運営委員会専門委員会（1月9日）

##### （審議事項）

- (1) 廃水処理施設の計画（継続）について

#### 昭和59年公開講座第2回委員会（1月12日）

##### （審議事項）

- (1) 昭和59年度公開講座の実施計画について

#### 昭和58年度第6回入学試験管理委員会（1月17日）

##### （審議事項）

- (1) 昭和59年度富山大学入学試験問題採点委員について
- (2) 昭和59年度富山大学入学試験調査書審査委員について
- (3) 昭和59年度富山大学入学者選抜学力検査実施要項（案）について
- (4) 昭和59年度富山大学入学者選抜健康診断実施要項（案）について
- (5) 昭和59年度富山大学入学試験における合格者及び補欠の発表方法並びに入学意思の確認について
- (6) 昭和59年度富山大学入学試験関係行事予定（案）について

#### 第13回学則改正検討小委員会（1月17日）

#### 計算機センター運営委員会（1月17日）

##### （報告事項）

- (1) 業務報告
- (2) 専門委員会

##### （審議事項）

- (1) 情報処理センターの設置計画

#### 昭和58年度第5回学園ニュース編集委員会（1月17日）

##### （審議事項）

- (1) 第44号学園ニュースの発行計画について

#### 昭和58年度第10回評議会（1月20日）

##### （報告事項）

- (1) 昭和59年度共通第1次学力試験について
- (2) 学生の動向について

##### （審議事項）

- (1) 富山大学情報処理センター設置準備委員会要項の制定（案）について
- (2) 富山大学附属図書館長候補者の選考について
- (3) 昭和59年度富山大学入学試験の実施について

昭和58年度第3回教務委員会（1月24日）

（審議事項）

(1)非常勤講師について

昭和58年度第27回学寮補導委員会（1月27日）

（審議事項）

(1)受験生宿泊について

昭和58年度第2回富山大学施設整備委員会（1月27日）

（審議事項）

(1)課外活動施設地（岩瀬）について

構内交通対策委員会（1月27日）

（審議事項）

(1)原動機付自転車，自動二輪車の交通規制について  
(2)工学部移転に伴う交通対策について

第14回学則改正検討小委員会（1月30日）



学 事



共通第1次学力試験の実施

昭和59年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が、去る1月14日(土)、15日(日)の両日にわたって全国一斉に実施されました。

富山県では、県内で受験を志願している者が4,400名（男2,749名，女1,651名）あり，富山大学3,500名（男2,188名，女1,312名），富山医科薬科大学（富山中部高校で実施）900名（男561名，女339名）でそれぞれ実施されました。

本学では，試験実施委員会で計画された実施体制に

基づき，五福地区6試験場において柳田友道学長を実施本部長とし492名の教職員が試験に携わり，初日は国語，理科の2教科，2日目は社会，数学，外国語の3教科を予定どおり終了しました。

なお，本学関係の受験状況は次のとおりでした。

志願者数	欠席者数	受験者数	欠席率
3,500	126	3,374	3.6%



学 内 諸 報



附属図書館長の改選

若林嘉一郎附属図書館長の任期が，昭和59年2月19日で満了することに伴う次期図書館長候補者の選考は，1月20日開催の評議会において附属図書館商議会から推薦のあった3名の教授の中から投票によって行われ，その結果，平田 純教授（人文学部）が選出されました。任期は，昭和59年2月20日から2年間。

平田教授は，昭和27年3月東京大学文学部英文学科

を卒業後，同28年4月富山県立桜井高等学校教諭，同29年4月富山大学文理学部講師として奉職されて以来，同39年3月同学部助教授，同46年5月教授，同52年5月人文学部教授となり今日に至っています。

この間，同54年5月から同56年5月まで評議員を併任し，本学の管理運営に当たられました。専門は，英語学，富山県出身。

## 現金自動支払機(CD)の設置並びに教職員に対する給与の口座振込の概況について

かねてから本学五福地区の構内にCD設置の要望があったところですが、このたび学生会館内にCDが設置され、2月1日にオープンしました。

これまで、五福近隣の金融機関を利用するにしても極めて交通量の多い県道があるため時間等もかかることや口座振込等により銀行を利用する機会が多くなったこともあり利用には不便を感じていたところであり、このたびのCD設置により福利厚生の一環として本学学生、教職員が本学の五福地区の構内で利用することができ、多大の利便に供することができることとなりました。

なお、CDの取扱店として北陸銀行と富山相互銀行の2行が設置されており、取扱時間については、平日は9時30分～16時30分(土曜日は9時30分～12時)までとなっています。

一方、現金取扱上の危険防止及び給与の支払事務の簡素合理化を図るため、給与の口座振込を3月15日支給の期末手当から実施することになりました。教職員各位の御理解により、昭和59年2月9日現在では98%の申出となっております。なお一層の御協力をお願いいたします。



(CD設置に伴い、テープカットを行う  
本田学生部長、川上事務局長)

## 富山大学職員成人式

昭和59年富山大学職員成人式が、去る1月10日(火)学長室において行われました。

学長から新成人一人一人に記念品として「大望」と記された色紙(教育学部鶴木利雄教授揮毫)に額を添えて授与され、引き続き学長の祝辞があり、これに対して新成人を代表して織田世起君から「社会人として恥しくないよう互に切磋琢磨したい」旨の答辞がありました。

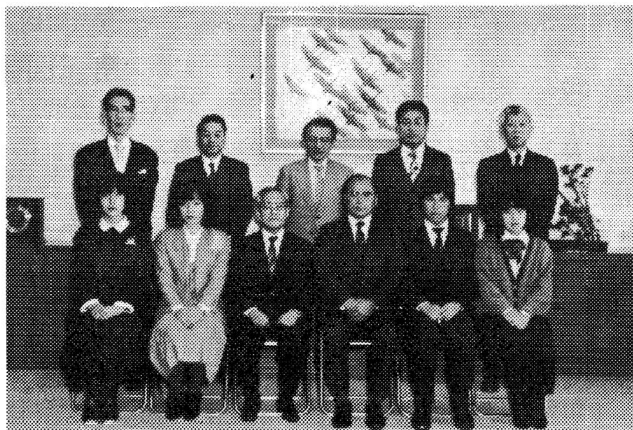
閉式後、新成人を囲み懇談会が催され、和やかな雰囲気の中に終了いたしました。

なお、鶴木教授には本紙を借りて深く感謝申し上げます。

(新成人は、次のとおりです。)

教育学部 織田世起

教育学部	大山口由利
教養部	長谷川美香
附属図書館	石黒世志子
経営短期大学部	高森聖子



## 昭和58年度国家公務員レクリエーション共同事業富山地区ボーリング大会

昭和58年度国家公務員レクリエーション共同事業富山地区ボーリング大会が、去る1月28日(土)トヤマゴールデンボールにおいて、富山工業高等専門学校の当番で開催されました。

競技は午後1時40分から始まり、3ゲームによる合計得点数によって団体戦及び個人戦の順位を決定する方法で実施されました。

本学からは、5チーム15名が参加しCチームが次勝となりました。

なお、団体戦での成績は次のとおりです。

優勝 富山地方検察庁Bチーム

次勝 富山大学Cチーム

3位 富山医科薬科大学Aチーム

## 学内レクリエーション

### ○囲碁大会

本学レクリエーション委員会娯楽部会所属の囲碁班主催による昭和58年度学内囲碁大会が、去る1月21日(土)37名の参加者を得て本学の職員会館で実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

#### Aクラス

優勝 松本賢一 (理学部)

次勝 土肥隆三 (学生部)

三位 金坂 績 (理学部)

#### Bクラス

優勝 廣田 実 (工学部)

次勝 藤井一行 (人文学部)

三位 竹川慎吾 (経済学部)

#### Cクラス

優勝 相原 茂 (教養部)

次勝 越森 哲 (施設課)

三位 豊本 勉 (工学部)

### —職員会館の宿泊の御案内—

利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!

申し込み……利用日の2日前までに!!

門限時刻……午後10時……御協力を……!!

## シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(5)

### 〈赤谷山の遭難〉(続)

この学報の前号で、本学学生が冬山で遭難した事件について書いた。それに続いて、この痛ましい事件の原因を考え、学生指導の参考に供したい。

その事件は、昭和35年12月28日山岳部員12名が、立山連峰の赤谷山に登り、全員で頂上に雪洞を掘った上で、6名がここに残り、他の6名はベース・キャンプに下りた。翌日頂上の6名は、ベースキャンプに下り

富山大学名誉教授の会 大 島 文 雄

る予定であったが、その夜から大雪となり、両者の連絡は絶たれ、連日大雪が降り続いて、不幸な結果になってしまった。

この不幸の原因の第一は、遭難6名の装備であった。その装備の品目

1 エア・マット 3

2 ツェルト・シート 2

3	ナイロン・ザイル	3
4	ラジオ	1
5	石油	2リットル
6	カンパン	3日分

それに個人装備としてポンチョウがある。この装備について注意されるのは、エンピ、スコップを持たないことだ。頂上で雪洞を掘るというのに、この器具を持たないのはどうしたことか。実際には、飯盒の蓋などを使ったという。12人全員で雪洞を掘ったというのだが、その雪洞はどんな程度のものか、容易に想像することができる。

次には、各人が寝袋を持って行っていない。赤谷山頂雪の中で一夜を明かすというのに、寝袋を持たないのは、全く無謀なことだ。掘った雪洞は、6名の中でうずくまるだけの広さと深さであったにちがいない。そこにエア・マットを敷き、シートをかぶって、寝袋無しで籠ったのであろう。これでは一夜の寒さに堪えられるわけがない。今一つ付け加えると、携帯ラジオは、ベースキャンプに置いて行った。天気状況を知るための大切なラジオを残して行くことも、あるべきことではない。遭難の直接原因として、まず装備の不備を挙げなければならぬ。

原因の第二は、気象判断の甘さである。こんどの遭難は、山頂に登ったその日から豪雪に襲われて動きがとれなかったためであるが、この地方では、冬期連日降り続く大雪というのは、めずらしいことではない。これを計算に入れないで冬山アタックを試みるのは、地元の山岳部としては甘いことだと思われる。

原因の第三は、計画変更ということだ。登山計画は、天候激変などのため已むを得ず計画を変更することはあっても、考えの浅い、思いつきの変更は、遭難の元になることは登山の常識であろう。赤谷の遭難は、その無茶な変更をやったのである。

学生部に提出されていた計画は、赤谷の山頂に達した後は、全員がベースキャンプに下りることになっていた。山頂でのビバークは計画に無かったものだ。それをやることを決めたのは、ベースキャンプを設けた時に急に決めた事だと言う。なぜであったか。当時赤谷に登った他大学のパーティがいくつかあった。それらは、赤谷へ登ったあと、立山連峰の縦走を目指したものであった。それも九州方面の暖い国のパーティである。これに対して、雪国の地元の山岳部が、赤谷の登頂だけで山を下りるということは、いかにも意気地ないという気持に駆られた。そこで山頂のビバークを

考えた。それが計画変更の実情である。

本来この登山は、山岳部の二年生を対象として、次の登山リーダーを養成するのが目的であった。このような目的を持ち、その目的に応じた計画であったので、他のパーティに対して恥ずかしいことはないはずだ。それなのに、妙な意地、虚しい意気のために計画を変更し、しかも前記のような無茶な装備でこれを決行して、ついに取返しのつかないことになってしまったのである。

さて、若者の妙な意地、虚しい意気のために計画変更を敢えてしたことについて考えてみたい。それは、彼らの立場を考える冷静な思慮を欠いたということだが、さらに一面から言えば、彼ら自身に対する自信、過信があったと言える。若者の意気、精力、体力に対する過信である。この過信があるために、装備の著しい不備を承知の上で、山頂のビバークに耐え得ると思ったにちがいない。この過信に対する冷厳な戒めをこの事件は与えたのである。

遺体となった6人の学生は、皆腕時計を付けていた。それはいずれも4時で止まっていた。体温が無くなれば、時計は凍るわけであるから、それは死亡時刻を示している。さてそれは何日の4時か。そしてそれは午前4時か午後4時か。遺族の人々にとっては、故人の命日を定めるためにもそれを明らかにしたかった。ところで腕時計には凍らない油を用いたものがあるということで、時計店で調べて見ると不凍油を用いたものは無いことがわかった。

そこで幾日に亡くなったかという問題であるが、それについて有力な意見は、12月29日午前4時という推定であった。12月28日赤谷山に登り、雪洞の一夜が明ける翌日の黎明、この時冷えこみが最も強い、その時に亡くなったものだということだ。ところが、ここにもっと厳しい推定があった。頂上へ登ったその日の夕方4時というものである。この推定をされた山の専門家の意見はこうである。12人が頂上に登った時は、みぞれが降っていた。そのために被服はぬれ、身体は汗でぬれていた。頂上で雪洞を掘って、さらに汗を流した。そこへ風が出た。当時の赤谷の風速は15メートル。ところで山の常識として、風がある場合、肌を感じる寒さは、実際の気温より低くなる。その割合は、風速1メートルについてマイナス1度、それが常識だということである。赤谷山の当時の気温は、二千何百という高山の頂上で大雪の中だから、その気温はもちろん零点下である。それに風速15メートルとすれば、さら

にマイナス15度の寒さになる。この猛烈な寒気がぬれた身体、そして疲れた身体に襲いかかった。

「そうならば、人間のからだはひとたまりもない。」と山岳家は言い切った。それを聞いていた私は、おそろしい気持で山岳家の断定にうなずく他はなかった。

当時12名が赤谷の頂上に達したのが午後2時、その夕方4時に亡くなったとすれば、僅か2時間しか持たなかった生命である。なんという人間の肉体のもろさであろう。これが赤谷山事件の残した深刻な教訓であった。

冬山登山の若者のあこがれは、冬山の、崇高なまでの美である。これに対するあこがれは、精神的な高い

あこがれだ。そして、この崇高美の聖域に参入するために、長時間の大きな困難と戦う。若者は、これを真剣な生き方として実践するのである。かく思えば、若者の志向は、きびしくも美しい。だが、その上の驕りがあった。装備無くして極寒の試練に挑んだのである。そしてあまりにも痛ましい結果となった。若者よ、謙虚であれ、という痛烈極まりない教訓を、私は思うのである。

▶筆者：昭和2年4月 富山高等学校に着任

昭和43年3月 停年退職

昭和43年6月 富山大学名誉教授の称号授与

- ◎ 積雪・凍結時の自動車等の運転は、極力取り止めることに努めましょう!!
- ◎ 積雪時は、構内除雪の障害とならないよう駐車に注意しましょう!!
- ◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

## 寄 稿

### 〈西ドイツ見聞記〉

まだ寒い西ドイツの大地を踏みしめたのは、昭和58年3月27日であった。それから9カ月の間に西ドイツで見聞したことを紹介することによって、西ドイツと日本の相違点を浮彫にしたいと思う。今回の留学で最も長く滞在したのは西ドイツだからである。

役所で経験したこと。公務員は一人ないし二人で一室を有し、大室で仕事をする事ができない。その結果一つの用務を完了するためにあちこちの室を往来しなければならなかった。

大学で経験したこと。教授の室には本箱が全くなく、その隣の室には必ず1名の女性秘書がいた。ゼミで学生が皆に配布するレポートは、自分でタイプ印刷をし、頁数が20頁から30頁の本格的なものであった。日本でこれを学生に要求したら、残念ながら、恐慌状態になるであろうと思われた。大学のキャンパスは、特定の敷地に集中しているということではなく、大学の本部を

経済学部助教授 泉 田 栄 一

中心に胡麻塩を蒔いたときのように、散らばっていた。物の売買、下宿探し等には学内の掲示板が大変利用されており、小さい紙に用件を書き、その下に挽取ることができるように同じ電話番号を書いて、ちょうど蜂の足のように切込を入れられた無数の紙が所狭しと貼られていた。私もドイツ語と日本語の交換授業を望む紙を掲示板に貼ってみたところ、1カ月後には連絡が入り、交換授業を実際に行うことができた。

大学の図書館で経験したこと。図書館は集中管理方式を取っていなかった。法学部では専門別に各階に図書室があり、開架式であった。書庫内に机が沢山並べられてあり、廊下には多くのコピーの機械が置いてあった。安い料金（円に換算すると1枚約10円）で係員を通さずコピーができ、レバー操作で縮小も可能であった。書庫内にはカバンを持って入ってもよく、その場合には退出の際に係員にカバンの中を見せればよかった。

他学部の図書室もこれとほぼ同様であり、図書室の入口にごく少数の係員しかおらず、学生のインフォメーションも担当していた。私のように大学の外部から来た者も、在庫の記帳をすることもなく、即座にその場で在庫が許され、諸の意味で極めて合理的であると感じた。ドイツでは本が高いので自分で本を買う代りに図書室を利用するといった感じで、利用者は日本より多かった。ちなみに、大学の近くの法律書を専門とする本屋が潰れ、在庫一掃のための半額バーゲン・セールが行われているのを目撃した。

娘の病気で経験したこと。医者には、大学病院を除き、電話で予約してから出掛けなければならなかった。予約しないで出掛けると、予約した場合より高い代金が請求された。支払は、1カ月も過ぎてから手紙で送られて来る請求書で指定された銀行の口座に払込むという方法で行う。薬は病院で入手できず、薬局で買う。そして医者が書いた処方箋を持っていかないと、特定の薬の場合、薬局は絶対に売ってくれない。同じ薬の値段も店によって異なる。医者は薬の使用を最少限に留めようとし、症状が残っていても薬の使用を止めさせる。しかし医者が予言した日にはその症状もなくなっていた。その代り診察費は、日本と異なり、高い。歯科医の場合も同様であった。夜でも回り持ちで必ずどこかの医院・薬局が開いていることはありがたかった。救急車は、有料とのことであった。

買物で経験したこと。食糧をスーパー・マーケットで買っても、食糧を入れる袋を呉れない。袋は、お金を出して買うものなのである。市は、今日でも定期的に開かれており、利用者も多い。品物は全く同一の物であっても店によって値段が異なるから、散歩がてらウィンドウ・ショッピングをしている光景に良く出合った。日付が過ぎたパンなどもスーパー・マーケットでは平気で売っていた。ビール・ワインは日本と異なり安い、タバコは高く、400円前後した。ドイツ人は水道の水を飲んでいたが、同じことをした日本人が腎臓をやられたと聞いたので、ミネラル・ウォーターを買わなければならなかった。

新聞を見て。社会面がない。配偶者を求める広告が権威ある新聞にさえ載っている。日本と異なり、論評は新聞によって異なる。そのためテレビにプレス・ショーという番組があり、各新聞の論評を紹介しているほどであった。

テレビを見て。日本と異なり一日中放映されているわけではない。民放もない。そのため民放を認めるか

否か目下政治問題の一つになっている。コマーシャル（チョコレート・洗剤の宣伝が多い）もあるが、特定の短い時間帯に限り流される。日本と異なりかたい番組が多い。機械で数字を書いた沢山のボールが入っている籠を回転させ、数字合わせをする賭博が、毎週放映されているのには驚いた。日本の野球にあたるスポーツはサッカーであり、プロのチームの試合結果が毎日放映されている。テレビ映画は比較的多く、その中でアメリカ映画が多いのは日本と同じであるが、世界各国の映画が放映される点が日本と異なる。日本映画を滞在中に3本見る事ができた。土曜日の午後には、ヨーロッパの外の国のテレビも、ドイツ語ではなく、その国の言語のまま放映される。ちなみにドイツでも英語は通じ、デパートの店員、幼稚園の先生等も英語を話す。

衣類のこと。トップ・モードを着て町を歩いている人は、ほとんどいない。春と秋には、半袖を着ている人がいる一方、他方ではオーバーを着ている人がいるという具合である。靴下を洗濯したら色が水に溶けた。洗濯物は、空気が乾燥しているため、浴室に半日ほど干していれば、乾いてしまう。なおクリーニング代は高く、仕上げも日本ほど綺麗ではない。

食事のこと。ドイツ人宅に宿泊する機会をもったが、朝食と夕食は、冷食であり、極めて質素な食事であった。品、味ともに日本の方が良い。米もミルヒ・ライスと呼ばれ、売られているが、ドイツ人の主食はやはりパンである。

住宅のこと。ヨーロッパ人から日本の住宅は兎小屋と言われてもやむをえないほど、住宅は広く、しっかりした造りである。大抵セントラル・ヒーティングなので、お湯が出るし、家の内にいる限り、全部の空気が冬でも温かく極めて快適である。

道路のこと。秋が来て木の葉が落ちると作業員が来て落葉を掃除して行く。しかし犬の糞がそのままになっていることが多い。ヨーロッパ人はきたないと思わないらしい。道路は良く整備されており、広告ポスターは、歩道の広告塔にまとめて貼られる。市内でも道路が広いせいか、スピードを出しても、車のスピード感をあまり感じない。そのためかよく追突事故を見かけた。高速道路は、無料であり、速度制限がない。ベンツ、BMW等の車が猛スピードで走って行くのを見れば目撃した。

その他。西ドイツは北半球のかなり北に位置している。そのため夏には太陽が朝早くから出て、夜遅く沈



む。冬はこれと全く逆である。冬は天候が悪く、寒い。ドイツの内陸部だと零下15度ぐらいになる日もある。昼でも電燈をつけないと暗い日がしばしばで、蛍光灯をチラチラすると嫌がるため、今でも電燈を使用している家が多い。そのため眼鏡を掛けている人も多い。夏は、太陽を浴びる絶好のチャンスであり、1カ月の休暇をまとめて取り、南へ民族大移動を行う。それ

くらい冬は厳しいようである。

▶筆者は、文部省長期在外研究員（甲種）として、昭和58年3月29日から昭和59年1月28日まで10か月間ヨーロッパの企業結合の法規制の研究のため、西ドイツほかヨーロッパ各国へ外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

## 保健管理センターだより

### ～雪の上のふれあい～

今年も、予想通り大雪である。

- ・合歓の花の咲いている期間が短かった。（咲かなかった。）
- ・くるみの実が、ねずみにひかれて早くなくなった。
- ・ごまの茎が、例年よりも長かった。
- ・かめ虫が、多かった。

などから、山村の人びとは、雪に対して敏感で、大雪になるだろうと降雪の予測をしていた。

降る雪を眺めていると、まるで妖精が舞っているように楽しそうに降っている。そのような時には、願いをかける。ずっとずっと高く、遠くから降ってくる一片の雪に願いをかけ、目の前まで降りてくれば、願いがかなえられ、途中で見失ったり、また舞い上ってどこかへ行ってしまったりとすると、願いはかなわず、淋しく、哀しい想いをする。

雪は、遠慮がちに「降ってもよいですか」と問いながら静かに降る雪もあれば、昨日、今日の雪は、遠慮もなく「降ってもいいですね」と言いながら降っている。

その様は、憎いような、それでいて、自分の性格に似ているようで、自然に顔がほころぶ。

時には、一言のことわりもなく、夜半に多量降って人びとを驚ろかす。この時は、「エーイ、イジワル！」と叫びたくなる。

幼き頃、空を仰いで、舌の上に、雪がたまる（のっかる）のを競争していたら、舌より先に、睫毛に雪がかけ、慌てて舌をひっこめてしまったこと。

絵本で見た、あの美しい模様の雪が誰れの手の掌ののっかるかと、じっと手の掌を見つめていたこと。

兄と二人で、積もった雪に穴を開けたら青く（sky-blue）見えた。バンバ（雪遊びの道具）の柄で丸く

保健管理センター講師 高尾 テルノ  
穴を開けるとなおい青い。兄は、竹の物干竿で、トーンと開けたら、なおなお青く見えた。

空から降るから、やっぱり青いのかと思っていたことなどが思い出される。

また、昨年の3月、センター主催の第3回健康増進合宿セミナーでの出来ごとが思い出される。

雪よ、一瞬でよい青くなってほしい、いやどんな色でもよい変色してほしいと思った一刻があったことを。

それは、セミナー第1日目のスキー実習の時である。N先生のグループが、これから始めようとスキーを付け、ほとんどの学生が、ゲレンデの中腹まで登っているのに、1人の女子学生が何かもそもそとして泣きそうな顔をしている。「どうしたの」と尋ねると、「コンタクト・レンズを落してしまった」とのこと。これは困ったことになったと思い、その場を絶対動かない様に指示して、彼女の立っている周りを、ストックの先で印をして、静かに彼女のウェアを調べてみたが見つからず、辺りを10分位探しても見つからなかった。

（心の中では、オリエンテーションの時に注意しておかなかったことを悔んだ。）

N先生に、ご相談すると滑り降りて来て一緒に探して下さった。10分、15分と探すが見つかりません。グループの学生は、下の方で何かあったのかと見ている。他のグループは、すでに実習に入っている。（私自身、焦ってきた。）

N先生に、「グループ全員に言って、一緒に探してもらったらどうでしょう」と話すと、N先生は、黙って首を横に振られた。（私は、心の中で、グループの中のことだから、みんなで探せばよいのに——と）何故N先生は、首を横に振られたか、その時は、分らなかった。

20分も25分も経っただろうか、1人の学生が滑べり降りて来て「先生、何かあったのですか」と。

N先生は、黙って雪面に腹這いになって探している。私も学生の顔を見ただけで、黙って探す。

「コンタクト・レンズを落したの」と彼女は言う。彼はスキーを脱いで、一緒に探してくれた。そのうち、1人・2人と三三五五グループの学生が転びながら滑べり降りて来た。みんな様子を察して、同じ様に印の周りに黙って腹這いになって（スキー靴を履いたままの腹這いは、容易ではない）一生懸命に探した。

10分、20分と時間は刻々と過ぎてゆく。

グループのみんなの心は、コンタクト・レンズに集中している。

この時程、雪の白さをうらめしく思ったことはなかった。寸時でよいから青くなってほしい、いや他のどんな色でもよいと。レンズよ、キラリッと光ってほしい——とも。

（グループの一人ひとりとは、どう思っていたであろうか。）

グループ全員の気持ちは、ピッタリと一つになっていたのです。

腹這いになっているのも疲れた頃、彼女は、「済みません、諦めます、みなさんの実習の時間がなくなります」と。辺りは曇ってきて薄暗くなってきた。みんな一度は、起き上がったが、「それでは、もう一度探して見つからなかったら諦めよう！」と口ぐちに言い、再び腹這いになる。

目の前の雪を、一片ひとひらつまみながら、あの薄っぺらい鱗の様なコンタクト・レンズを指と指をすり合わせながら、指先の冷めたくなくなっているのにも気付かず探していた。～と「あった！」と男子学生の声。みんな「ウァー、よかった！」と歓声をあげる。

彼女自身、探すことも出来ず、ただ申し訳けなさそうに、「有難とうございました。有難とうございました」と喜びの言葉を繰り返す。「いいよ、いいよ、さぁ練習始めよう！」と一斉にゲレンデを登り始めた。

その時、私は、N先生の首を横に振られた意味が分かった。と同時に、3泊4日のゼミは、この一時間で、目的がほぼ達せられたのではなからうかと思われた。

何故ならば、このコンタクト・レンズの一コマが、グループの信頼感をより速く得ることが出来、コンタクト・レンズが見つかるまでのプロセスが重要な体験であったと思うからである。

例えば、無言の中に相手の気持ちを理解し（他者受容）、自分のこととして行動に移し（役割遂行）、探してくれている（信頼感）、そして、見つかった時の喜び（感情表現）など。

これらの事柄が、スキー実習の際には、技術が下手でも少しも恥かしがることなく、以前からの知己の如く、転んでいる人には、自然に手をさしのべて助け起し、夜のセッション、エンカウンターグループ（心とこころのふれ合い）の場も、スムーズに、ホンネで話し合える雰囲気自然に融け込んだ形になっていった。

◎ 退庁、退室の際には、電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

## 職 員 消 息

### 《住所変更》

経済学部

助 教 授 大 野 正 道

工 学 部

助 教 授 川 田 勉

経営短期大学部

助 教 授 下 崎 千 代 子

庶 務 主 任 田 中 崇 子

### 主 要 行 事

#### 本 部

- 1月4日 御用始め
- 5～11日 経済学部推薦入学願書受付
- 7～13日 合宿研修スキー講習会（於、志賀高原）
  - 9日 第5回廃水処理室運営委員会専門委員会
  - 10日 富山大学職員成人式
  - 12日 第2回公開講座委員会
- 14～15日 昭和59年度共通第1次学力試験
- 17日 国大協第3常置委員会（於、国大協）
  - 第13回学則改正検討小委員会
  - 第6回入学試験管理委員会
  - 第5回学関ニュース編集委員会
- 18日 会計係長会議
- 20日 第10回評議会
- 21日 学内囲碁大会（於、富山大学職員会館）
- 23日 第2回廃水処理室運営委員会
- 24日 第3回教務委員会
- 25日 経済学部推薦入学選考
- 27日 富山大学構内交通対策委員会
  - 第2回施設整備委員会
  - 第27回学寮補導委員会
- 30日 第14回学則改正検討小委員会
  - 国家公務員給与等実態調査説明会  
（於、金沢合同庁舎）

#### 人 文 学 部

1月10日 授業開始

- 11日 学部教務委員会
- 18日 教授会
  - 真率会総会及び同新年会
- 20～26日 文学専攻科入学願書受付
- 23日 学部教務委員会
- 25日 コース代表者会議
- 26日 学部将来計画委員会
- 27日 紀要委員会

#### 教 育 学 部

- 1月9日 附属中学校第3学期始業式
- 10日 授業開始
  - 附属養護学校第3学期始業式
- 11日 昭和60年度入試基本構想委員会
- 12日 附属小学校第3学期始業式
  - 附属幼稚園第3学期始業式
- 18日 学部補導委員会
  - 教授会
- 24日 予算委員会
- 25日 人事教授会

#### 経 済 学 部

- 1月9日 財務委員会
- 11日 学部教務委員会
  - 人事教授会
  - 教授会
- 25日 昭和59年度富山大学経済学部推薦入学試験

26日 同選考委員会  
30日 各種委員選考委員会

18日 予算委員会  
人事教授会  
教授会  
教養部長候補者選挙管理委員会  
25日 教務委員会  
教養部長候補者選挙管理委員会

**理 学 部**

1月17日 授業開始  
18日 学部教務委員会  
教授会  
理学研究科委員会  
真率会総会及び同新年会  
21~27日 大学院理学研究科入学願書受付  
30日 学科主任会議

**附属図書館**

1月11日 係長事務打ち合わせ  
27日 "

**工 学 部**

1月6日 昭和59年度共通第1次学力試験実施に伴う  
事務係担当者打合せ会  
温交会総会  
9日 授業開始  
10日 移転実施計画委員会  
13日 専任教授会  
14~20日 大学院工学研究科入学願書受付(二次)  
18日 教授会  
専任教授会  
25日 学科主任会議  
学部教務委員会

**トリチウム科学センター**

1月30日 トリチウム科学センター運営委員会

**保健管理センター**

1月18日 スキーI(教育学部)臨時健康診断  
25日 寒中水泳健康診断

**教 養 部**

1月11日 授業開始

**経営短期大学部**

1月9日 授業開始  
12日 第3回夜間主コース検討委員会  
19日 第16回教授会  
第4回入学者選抜学力試験委員会  
26日 第4回夜間主コース検討委員会  
28日 後学期授業終了

◇訂正(おわび)学報 昭和59年1月1日発行 第242号

ページ	訂正箇所	誤	正
10	学内諸報のシリーズ「富山大学、あの日あの頃」(4)の項目中、上から8行目の左側	……赤谷山で遭難した事件は、昭和36年12月末のことで、……	……赤谷山で遭難した事件は、昭和35年12月末のことで、……
11	同上上から25行目の右側。	……富山大学では、6月に遭難6君の合同慰霊祭を……	……富山大学では、5月に遭難6君の合同慰霊祭を……

編集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画  
富山市曙町8-4  
電話(33)3356代